

社会福祉施設における 労働災害発生状況について

令和2年度 社会福祉施設における労働災害防止講習会

令和3年2月

横浜北労働基準監督署 安全衛生課 関川晃

1 はじめに

例年、横浜市内の会場にて多くの事業場担当者の方にお集まりいただき、横浜市健康福祉局と横浜市内4つの労働基準監督署による労働災害防止講習会を開催してまいりましたが、今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を踏まえ、予め録画した動画配信により開催することといたしました。

初の試みということもあり、期間を限った動画掲載となります。

2 動画の構成

- (1) 令和2年度の幹事署である横浜北労働基準監督署長の挨拶
- (2) 横浜北労働基準監督署安全衛生課長からの労働災害発生状況の説明
- (3) コロナ禍を踏まえた腰痛災害・転倒災害防止の特別講師の講演
- (4) 横浜市健康福祉局からの説明

3-1 第13次労働災害防止推進計画

神奈川県労働局及び神奈川県下の労働基準監督署においては、現在、第13次労働災害防止推進計画（平成30年～令和4年の5か年、略称「第13次防」）に取り組んでいます。

社会福祉施設については、第13次防の重点業種として位置付け、休業4日以上之死傷災害について、基準年の5%以上の減少を目標に掲げています。

3-2 第13次労働災害防止推進計画

例えば、横浜北労働基準監督署における第13次防の目標は、基準年である平成29年の死傷災害103件に対して、令和4年には97件以下に減少させることとしています。

しかしながら、平成30年には減少したものの、平成31年(令和元年)と令和2年には連続して増加しました。

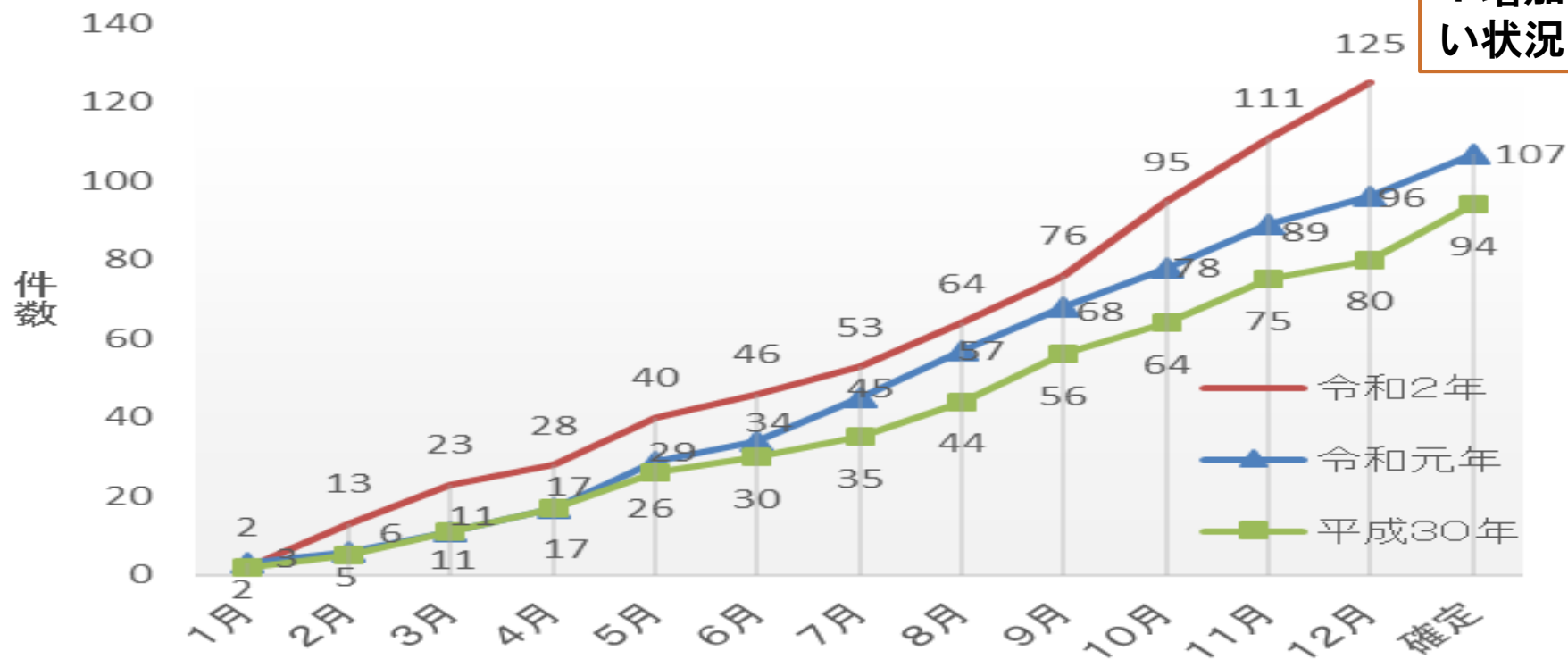


横浜北労働基準監督署 第13次労働災害防止推進計画の推進状況

令和2年(2020年)12月末現在

各年毎の数値目標		2017年	減少目標	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
		(基準年)		(1年目)	(2年目)	(3年目)	(4年目)	(最終年)
業 種	死亡災害目標値		15%以上	3	2	1	0	0
	死亡災害件数	2		5	5	6		
	死傷災害目標値		5%以上	903	894	885	876	866
	死傷災害件数	912		977	1,022	952		
社会福祉施設	死傷災害目標値		5%以上	102	101	100	99	97
	死傷災害件数	103		94	107	125		

社会福祉施設



前年比30.2%増！
*増加傾向が止まらない状況です

第13次防期間中の労働災害の推移(横浜北労働基準監督署)

*他の3署も・・・前年比で横浜南署32.1%、鶴見署12.5%、横浜西署16.5%の増加です。

4 社会福祉施設の災害の特徴

社会福祉施設の労働災害の特徴は、

①動作の反動・無理な動作（主に突発的な腰痛）

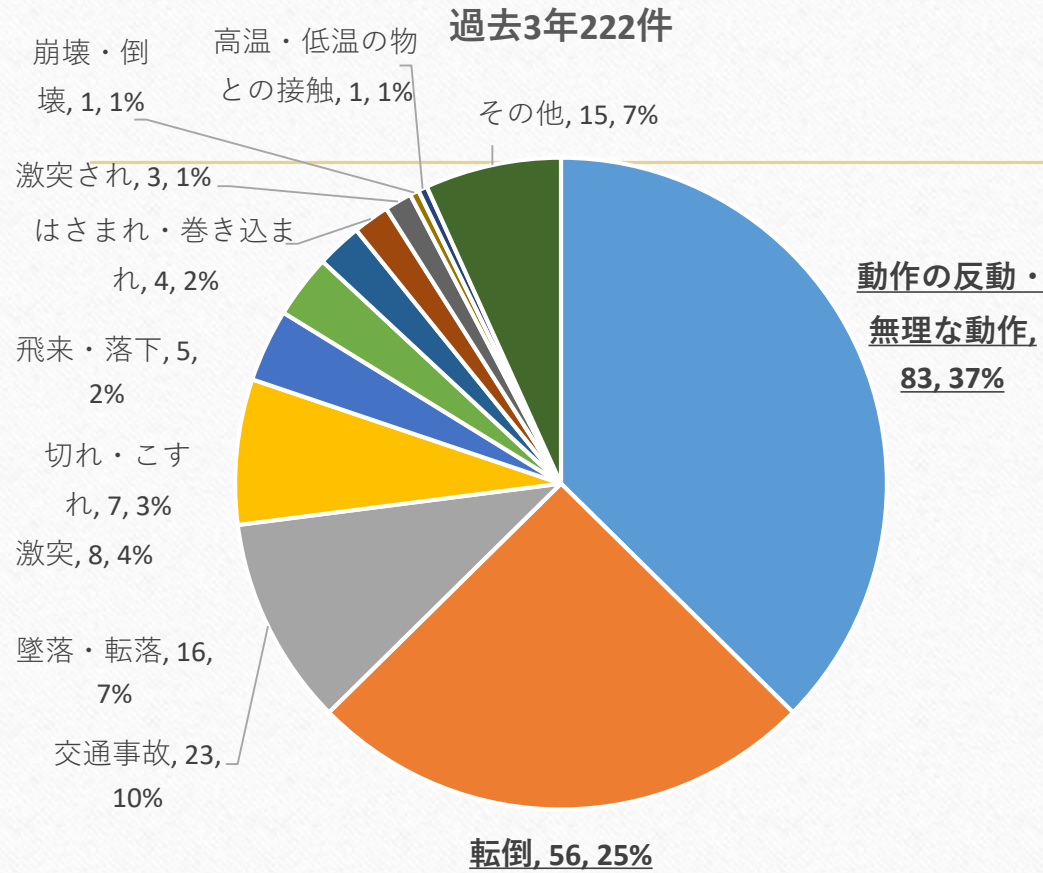
によるものと、

②転倒災害

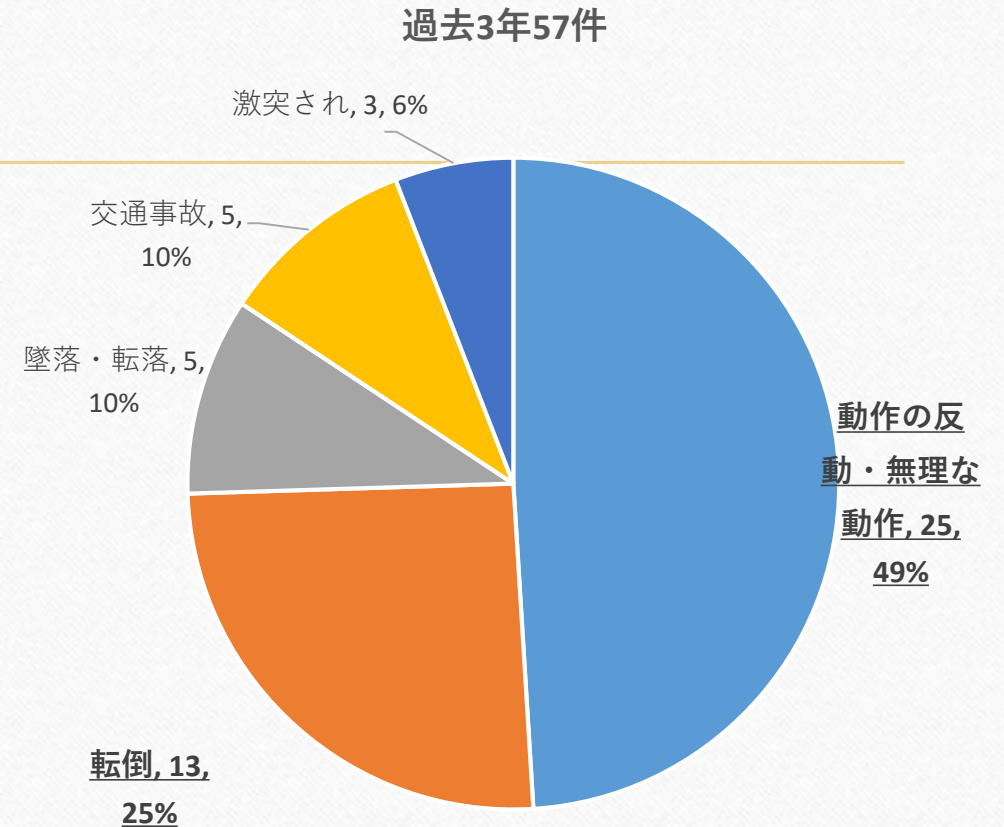
の2つの事故の型で死傷災害の大多数を占めるという特徴があります。

4-1 社会福祉施設の災害の特徴 (署別 事故の型別)

社会福祉施設の事故の型別 (横浜南署)



社会福祉施設の事故の型別 (鶴見署)

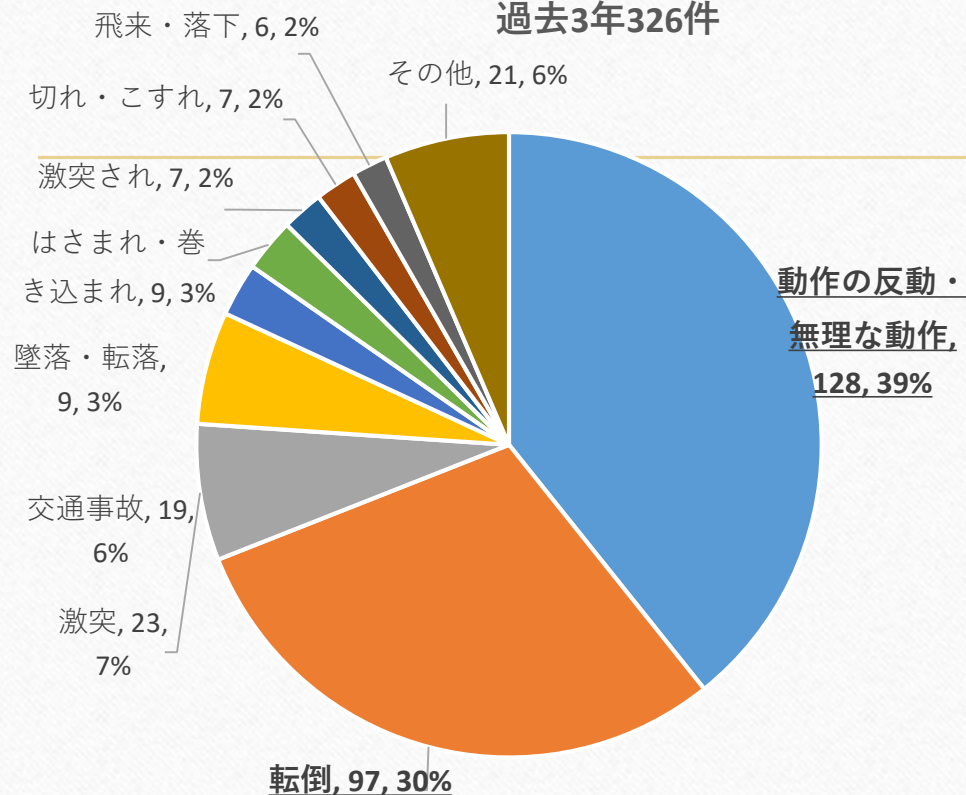


動作の反動・無理な動作と転倒だけで約7割！（グラフの数字は「件数，パーセンテージ」を併記しています。以下同じ。）

4-2 社会福祉施設の災害の特徴 (署別 事故の型別)

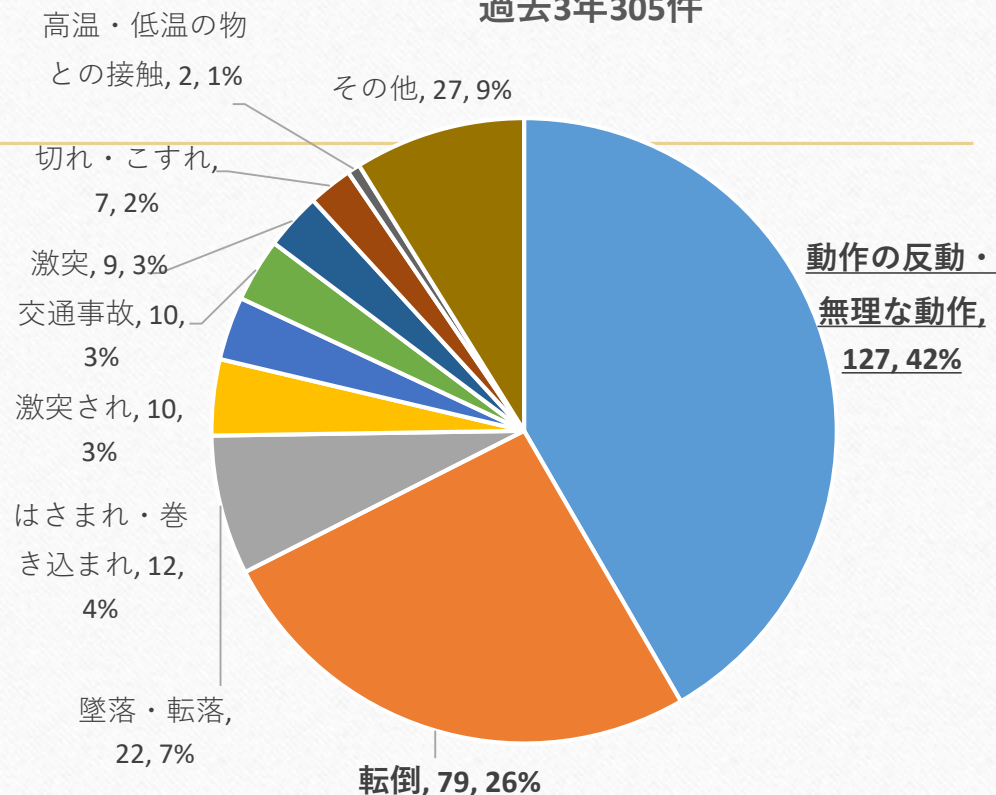
社会福祉施設の事故の型別 (横浜北署)

過去3年326件



社会福祉施設の事故の型別 (横浜西署)

過去3年305件

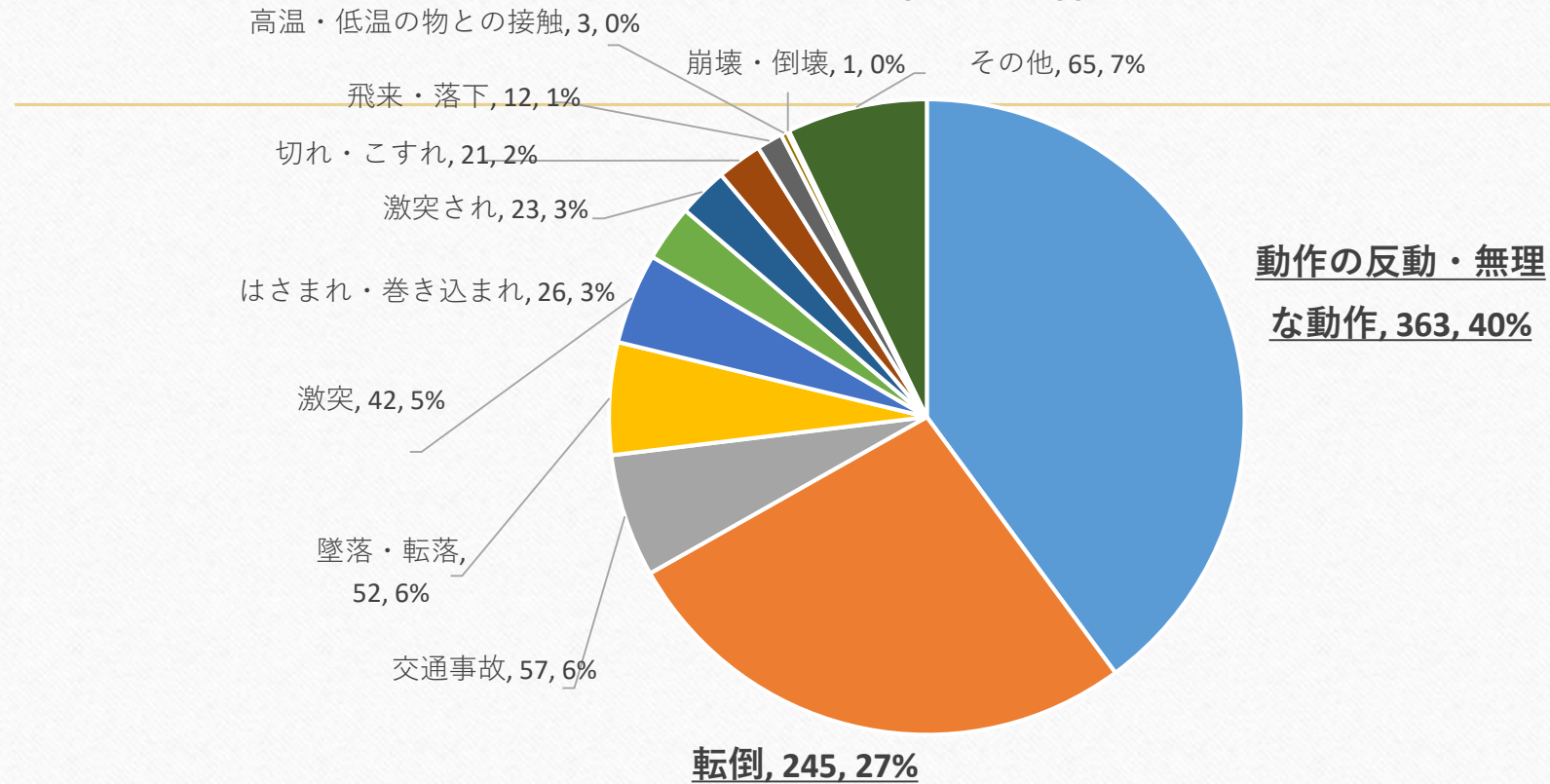


*** 動作の反動・無理な動作と転倒で約7割を占めます！**

4-3 社会福祉施設の災害の特徴(4署合計)

社会福祉施設の事故の型別 (4署合計)

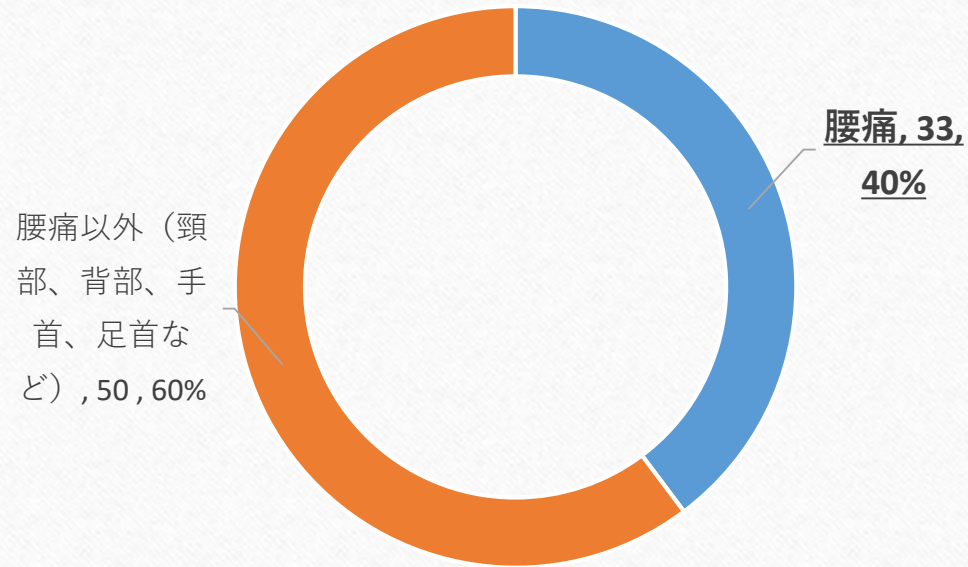
過去3年910件



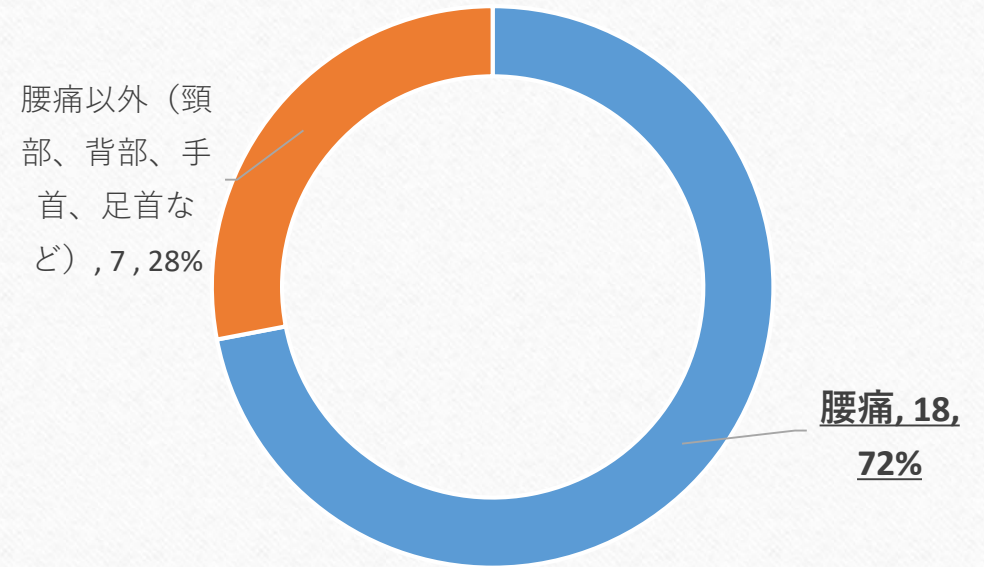
***動作の反動・無理な動作と転倒で約7割を占めます！**

5-1 社会福祉施設の災害の特徴 (署別 腰痛の割合)

動作の反動・無理な動作83件に占める
腰痛の割合 (横浜南署) 過去3年



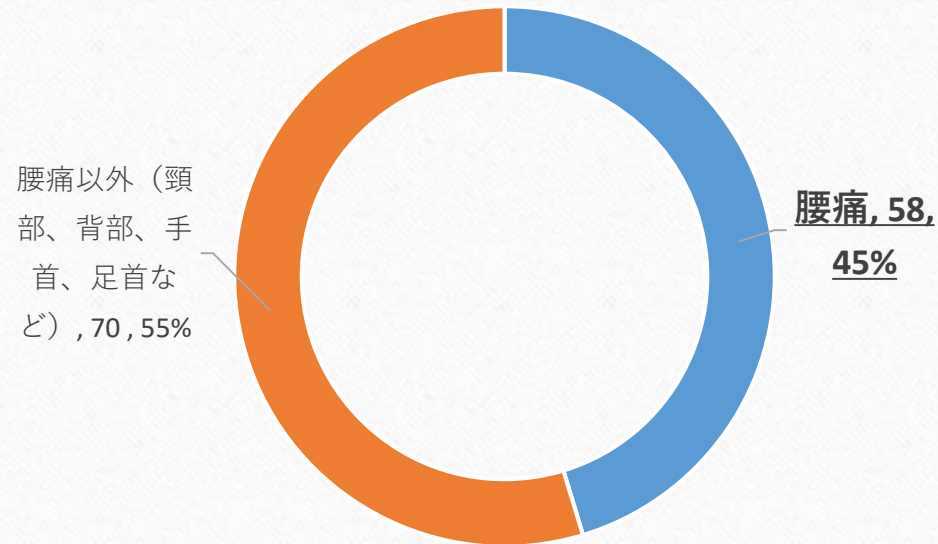
動作の反動・無理な動作25件に占める
腰痛の割合 (鶴見署) 過去3年



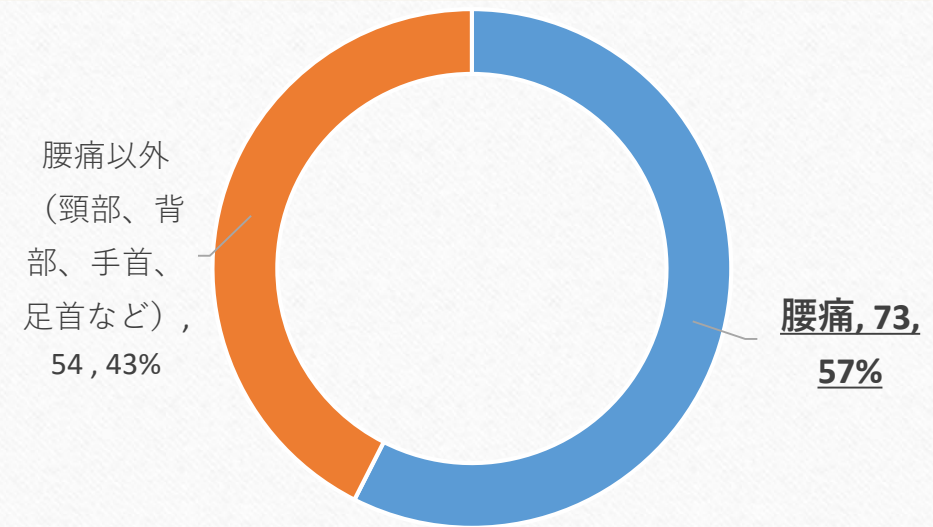
*** 動作の反動・無理な動作に占める最多は腰痛です！**

5-2 社会福祉施設の災害の特徴 (署別 腰痛の割合)

動作の反動・無理な動作128件に占める
腰痛の割合 (横浜北署) 過去3年



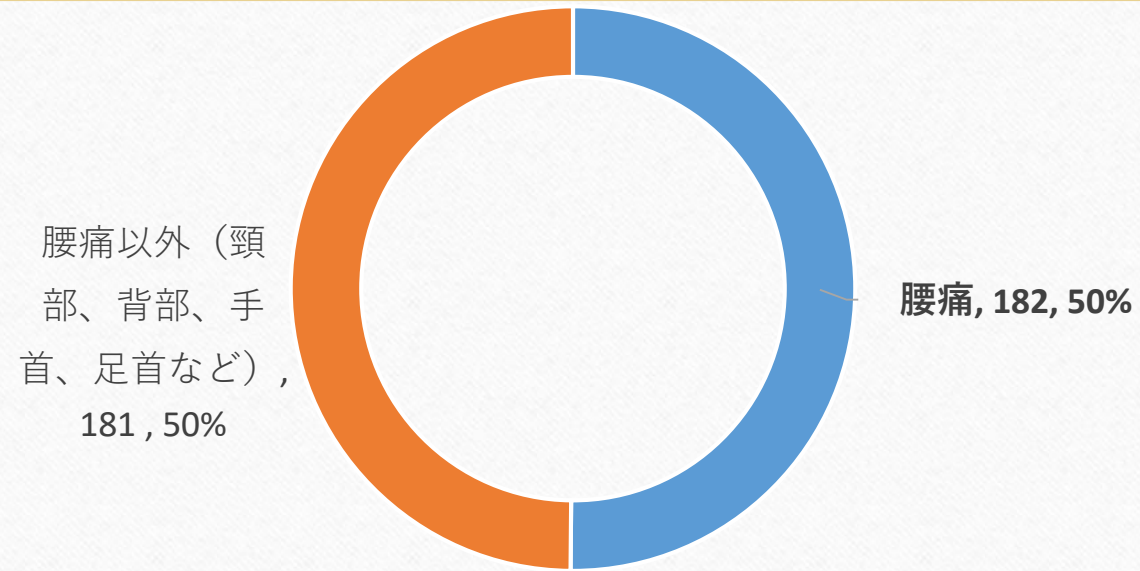
動作の反動・無理な動作127件に占める
腰痛の割合 (横浜西署) 過去3年



*** 動作の反動・無理な動作に占める最多は腰痛です！**

5-3 社会福祉施設の災害の特徴 (4署合計 腰痛の割合)

動作の反動・無理な動作 363件に占める
腰痛の割合 (4署合計) 過去3年

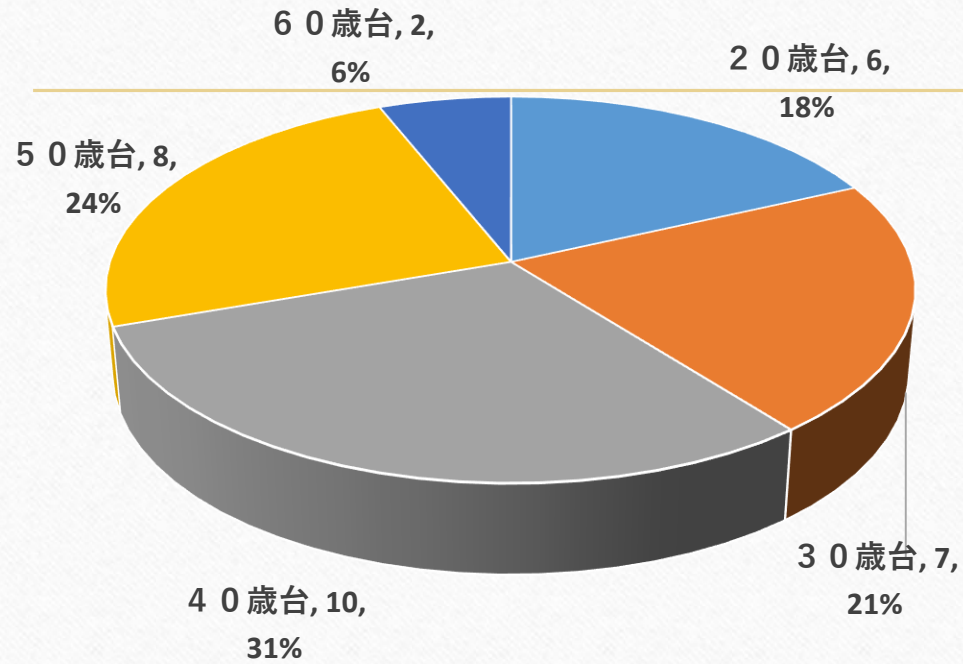


***動作の反動・無理な動作に占める最多は腰痛です！なおかつ半数を占めています。**

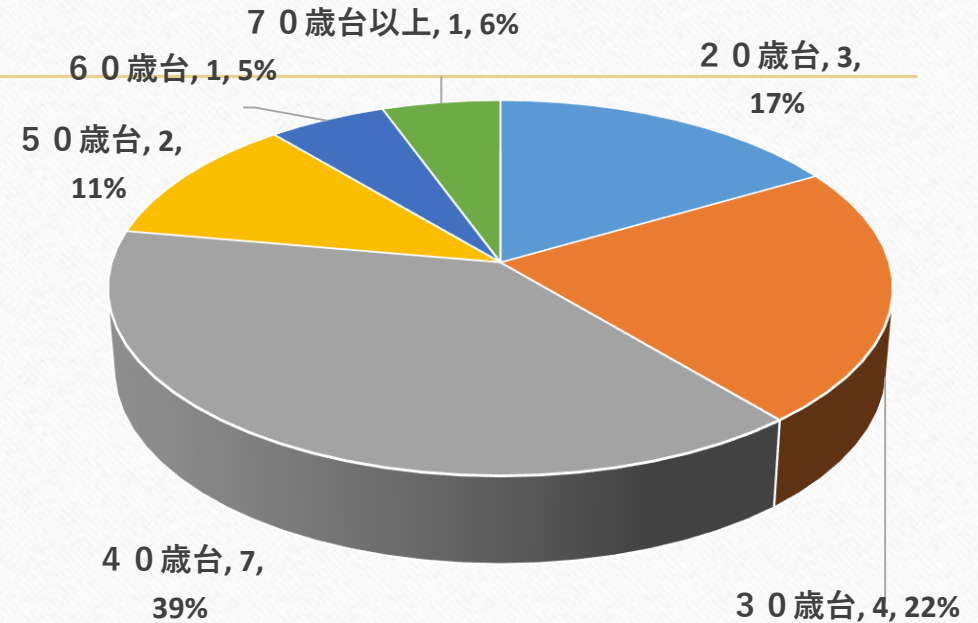
次に、腰痛の発症を年齢別にみてみましょう

6-1 社会福祉施設の災害の特徴 (署別 腰痛の年齢階層別)

腰痛 33 件の年齢別 (横浜南署) 過去3年



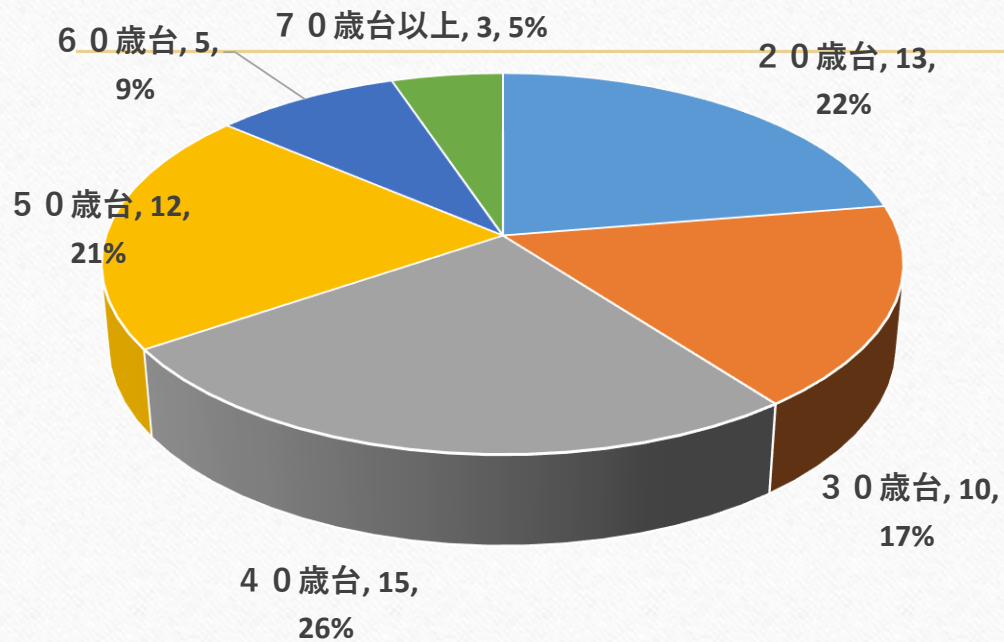
腰痛 18 件の年齢別 (鶴見署) 過去3年



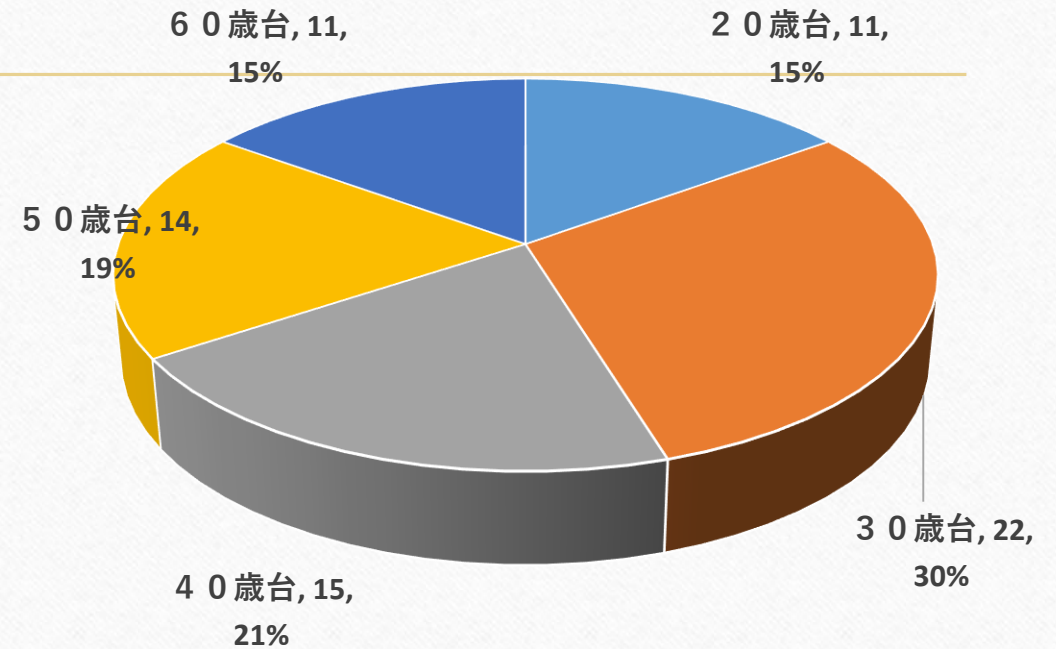
***中でも40歳台に多く発症しています！**

6-2 社会福祉施設の災害の特徴 (署別 腰痛の年齢階層別)

腰痛58件の年齢別 (横浜北署) 過去3年



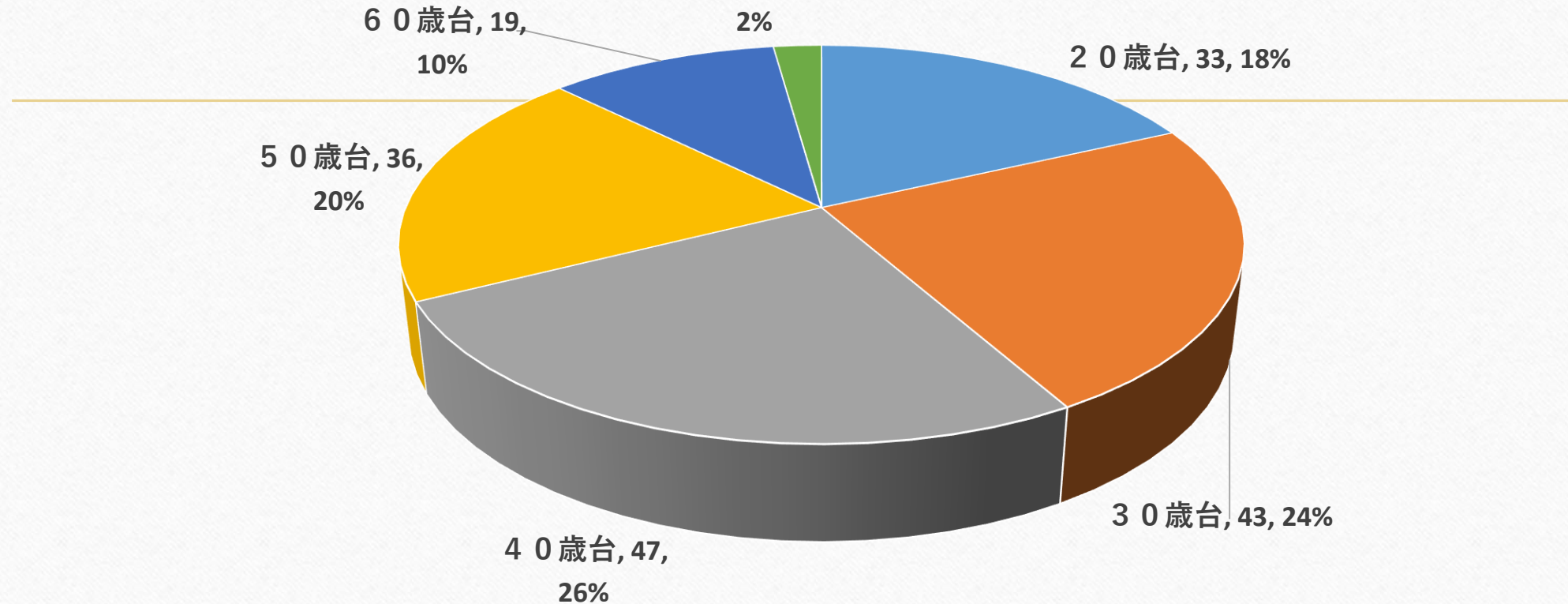
腰痛73件の年齢別 (横浜西署) 過去3年



*** 40歳台だけでなく、あらゆる年齢階層で発症しています！**

6-3 社会福祉施設の災害の特徴 (4署合計 腰痛の年齢階層別)

腰痛 182 件の年齢別 (4署合計) 過去3年
70歳台以上, 4,



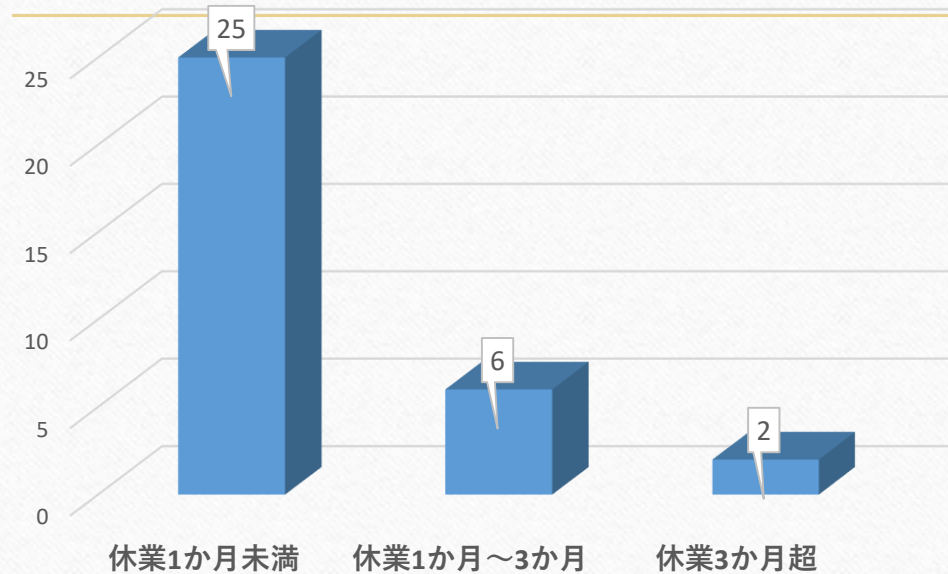
***繰り返しになりますが、幅広い年齢階層で発症しています！**

次に、腰痛の休業期間をみてみましょう

7-1 社会福祉施設の災害の特徴 (署別 腰痛の休業期間)

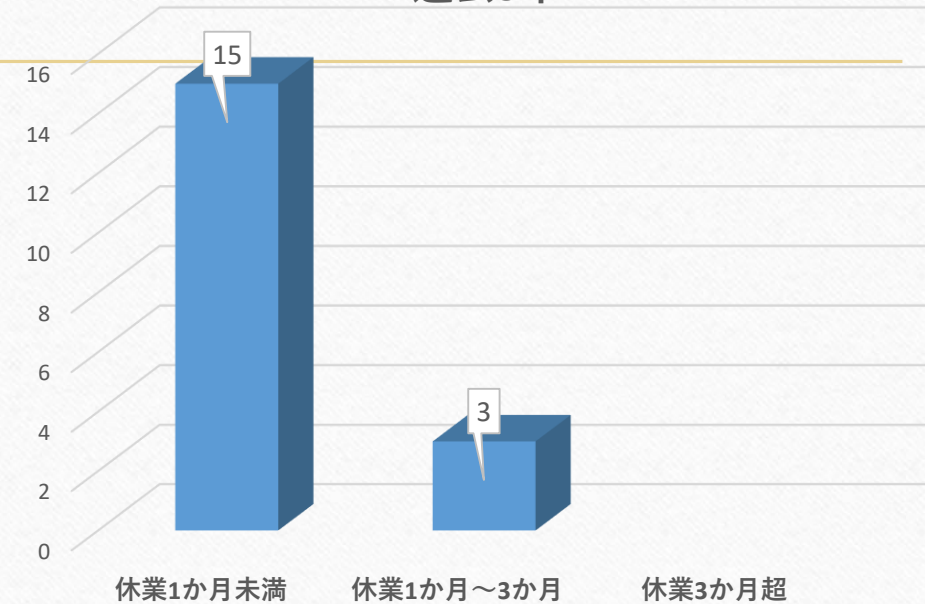
腰痛 33 件の休業期間別 (横浜南署)

過去3年



腰痛 18 件の休業期間別 (鶴見署)

過去3年

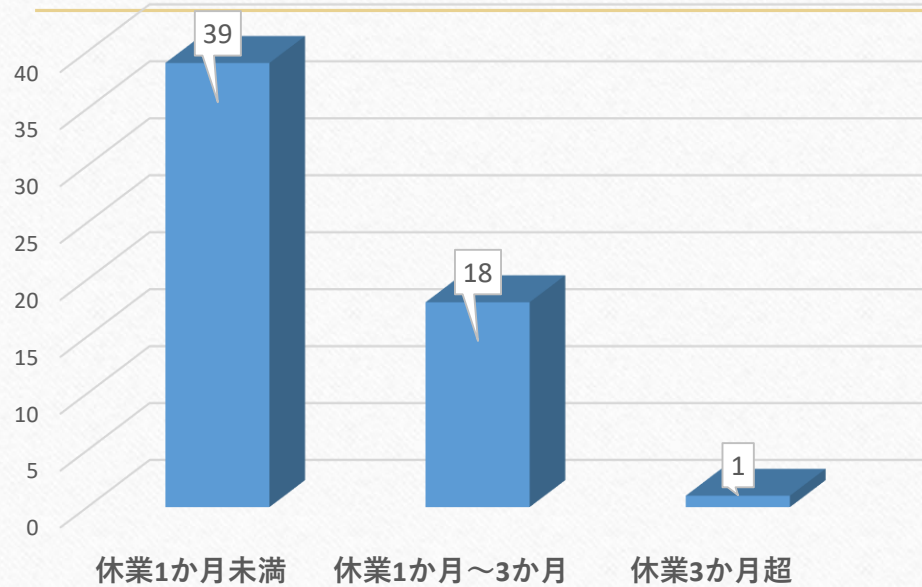


***休業 1～3か月と3か月超で20%前後を占めています！**

7-2 社会福祉施設の災害の特徴 (署別 腰痛の休業期間)

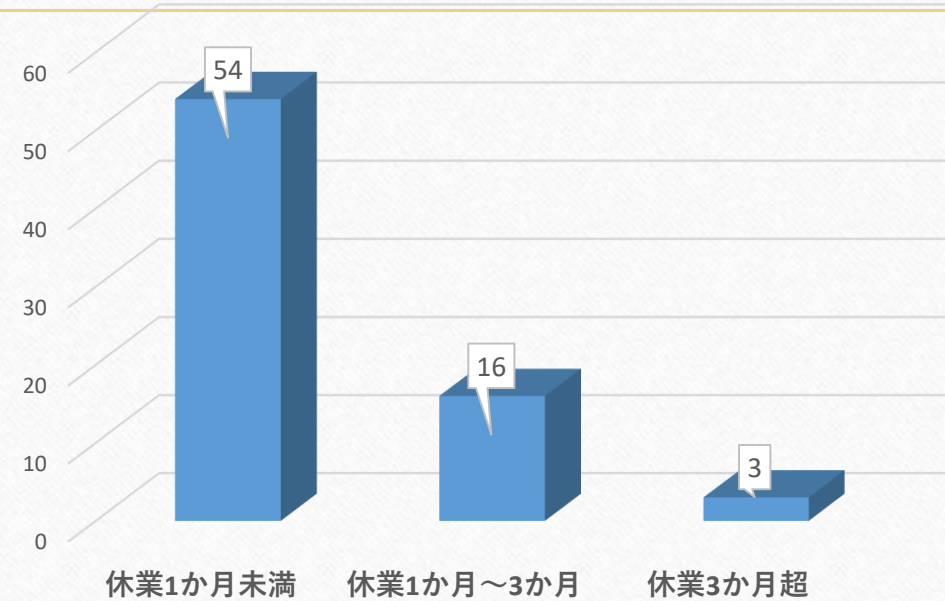
腰痛 58 件の休業期間別 (横浜北署)

過去3年



腰痛 73 件の休業期間別 (横浜西署)

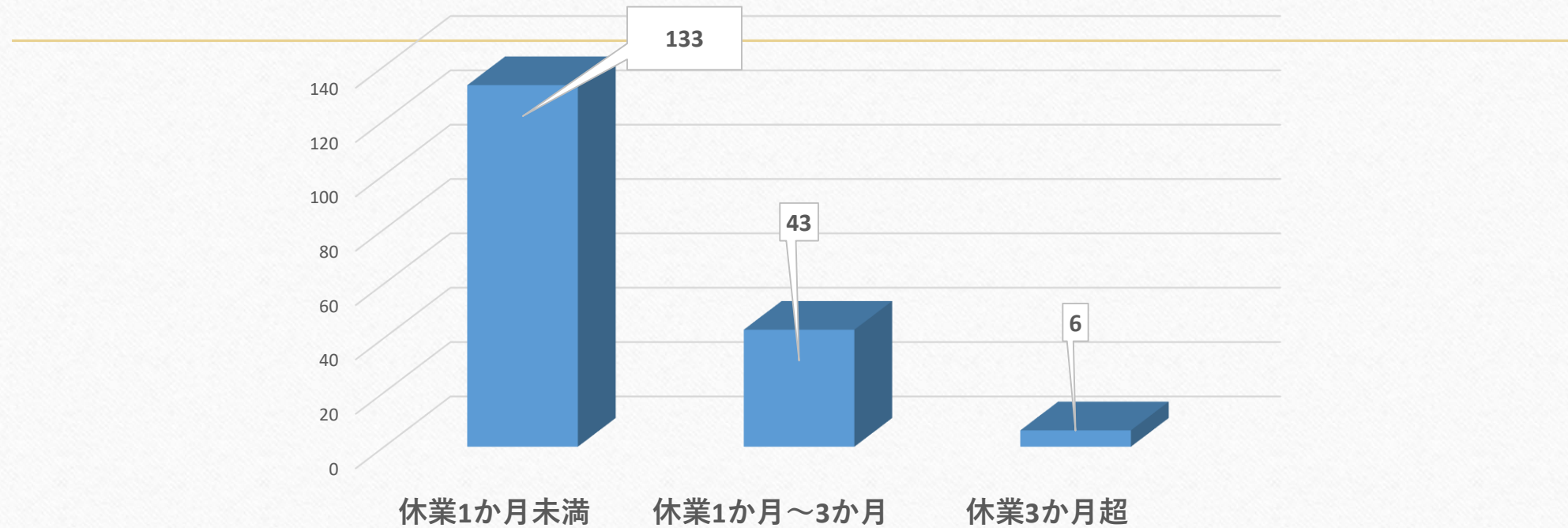
過去3年



***休業 1～3 か月と 3 か月超で 30%前後を占めています！**

7-2 社会福祉施設の災害の特徴 (4署合計 腰痛の休業期間)

腰痛182件の休業期間別 (4署合計)
過去3年



***休業1～3か月と3か月超で30%弱を占め、中には休業12か月以上のケースも見られます。若年層でも休業期間が長期化しています！**

次に、転倒災害の特徴をみてみましょう

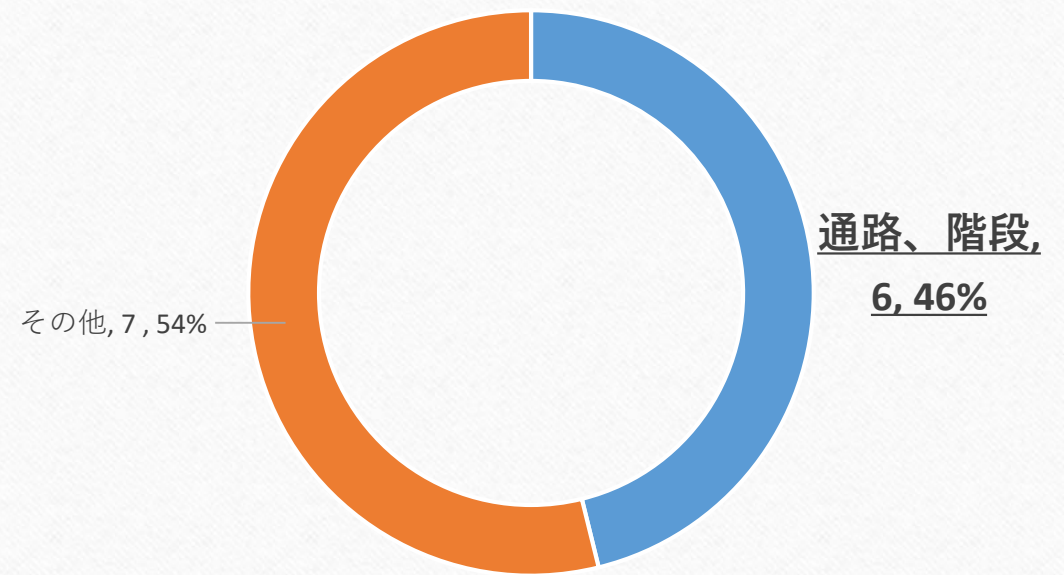
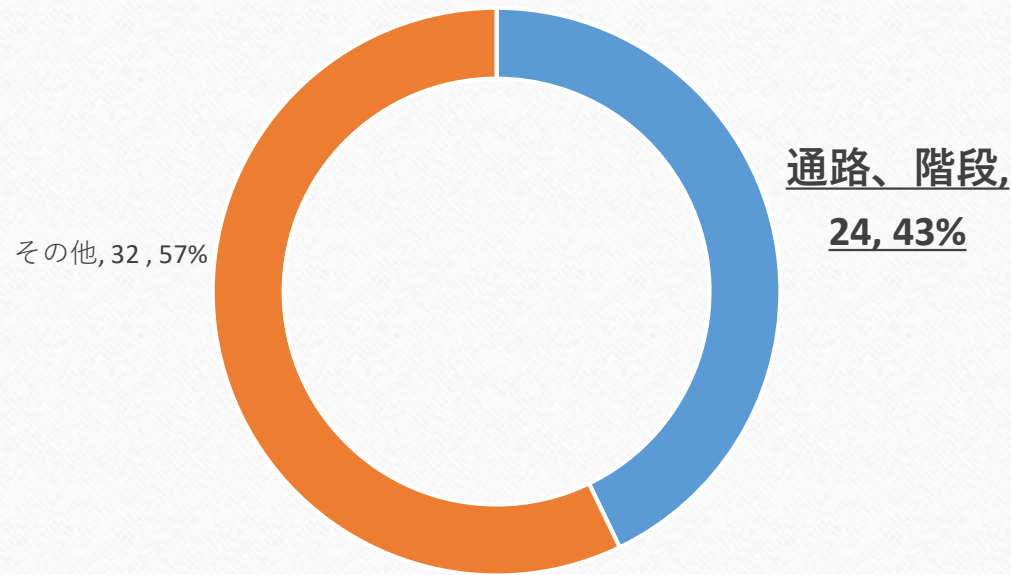
- どのような場所で転倒しているのでしょうか？



8-1 社会福祉施設の転倒災害の特徴 (署別 起因物)

転倒56件に占める通路、階段（起因物）
の割合（横浜南署）過去3年

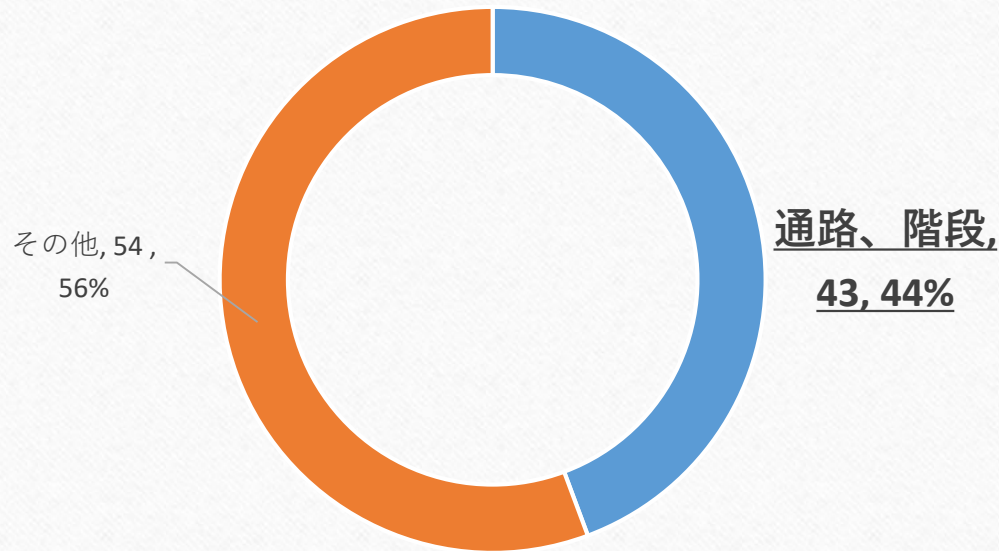
転倒13件に占める通路、階段（起因物）
の割合（鶴見署）過去3年



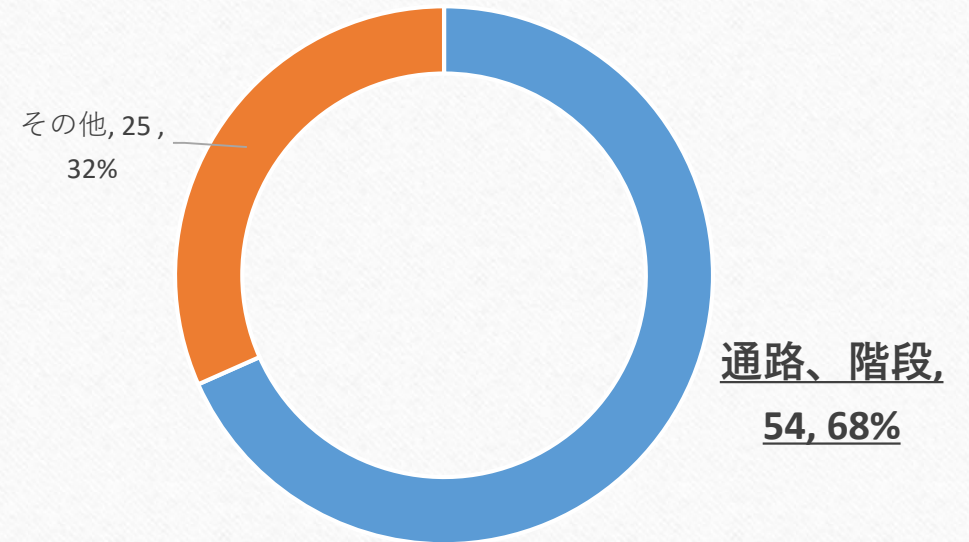
*** 通路、階段が最も多く、ほぼ半数を占めています！**

8-2 社会福祉施設の転倒災害の特徴 (署別 起因物)

転倒97件に占める通路、階段（起因物）
の割合（横浜北署）過去3年



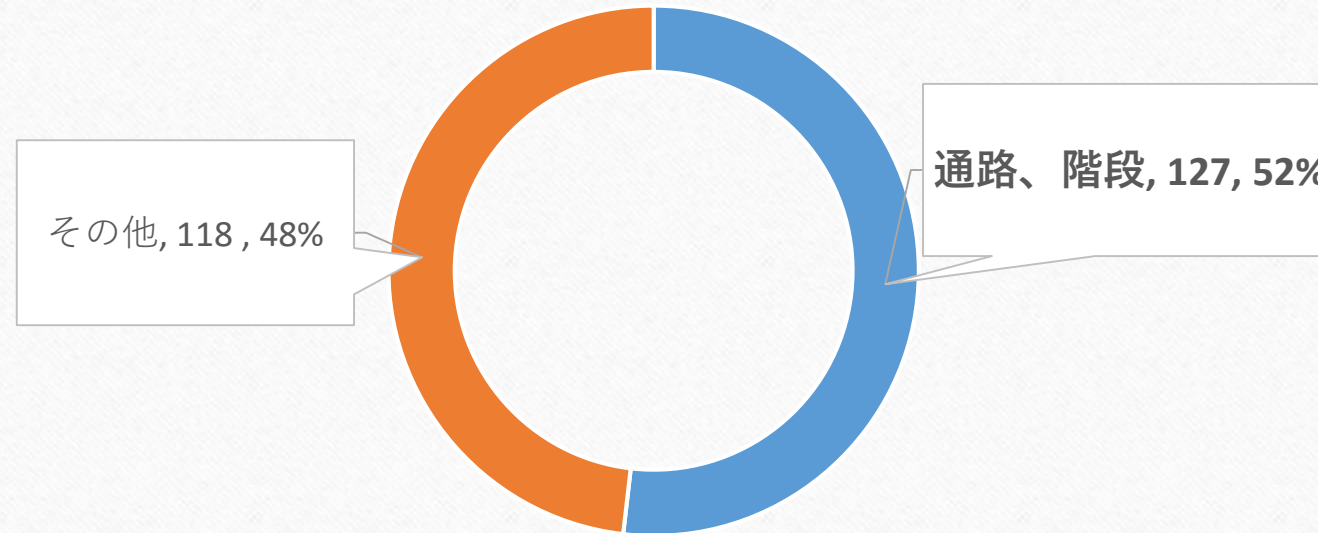
転倒79件に占める通路、階段（起因物）
の割合（横浜西署）過去3年



*** 日常的に歩行、小走り、昇降をしている通路や階段で転倒しています！**

8-3 社会福祉施設の転倒災害の特徴 (4署合計 起因物)

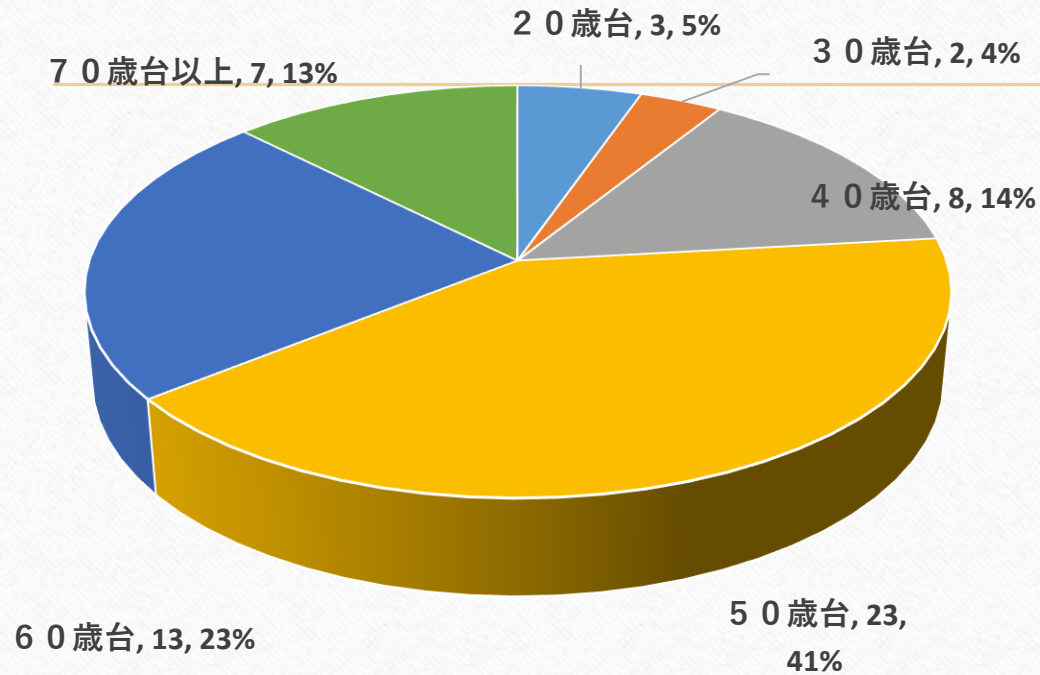
転倒245件に占める通路、階段（起因物）の
割合（4署合計）過去3年



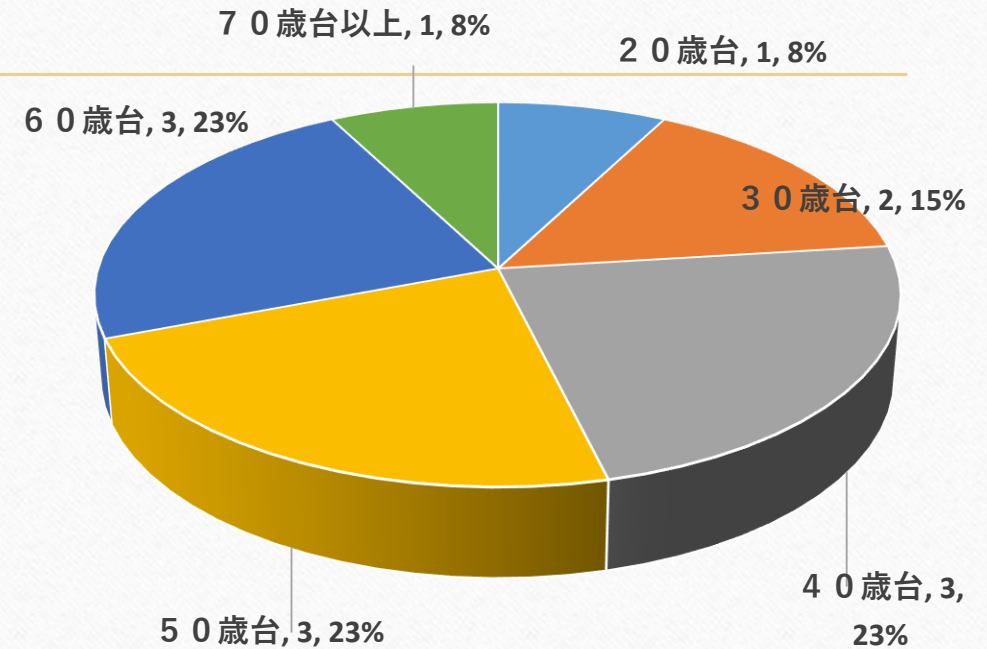
*** 転倒災害の半数以上が日常的に歩行、小走り、昇降をしている通路や階段で発生しています！**

9-1 社会福祉施設の災害の特徴 (署別 転倒の年齢階層別)

転倒56件の年齢別 (横浜南署) 過去3年



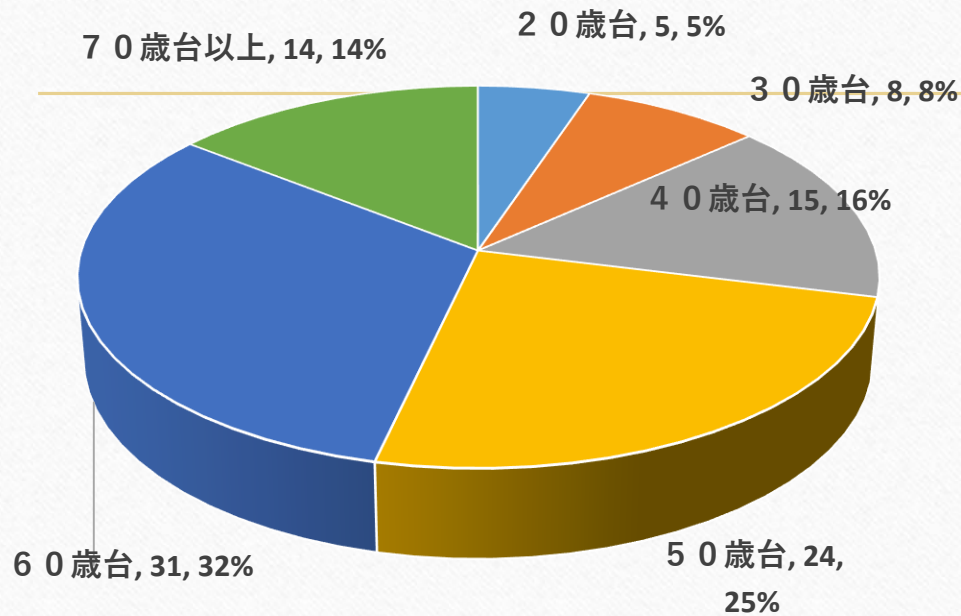
転倒13件の年齢別 (鶴見署) 過去3年



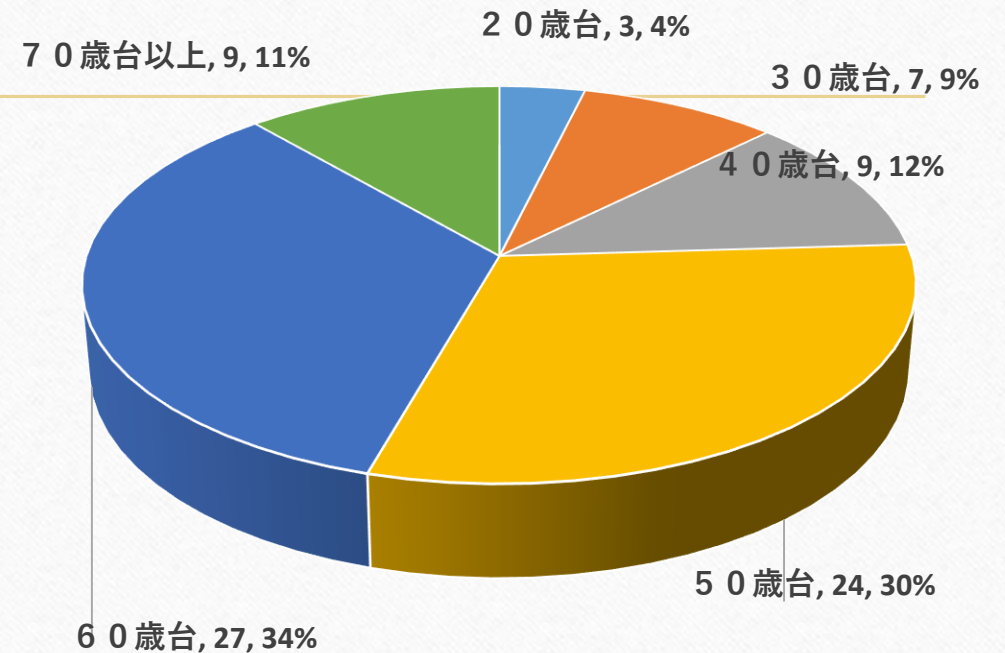
*** 転倒災害は40歳台～70歳台で80%を占めています！**

9-2 社会福祉施設の災害の特徴 (署別 転倒の年齢階層別)

転倒97件の年齢別 (横浜北署) 過去3年

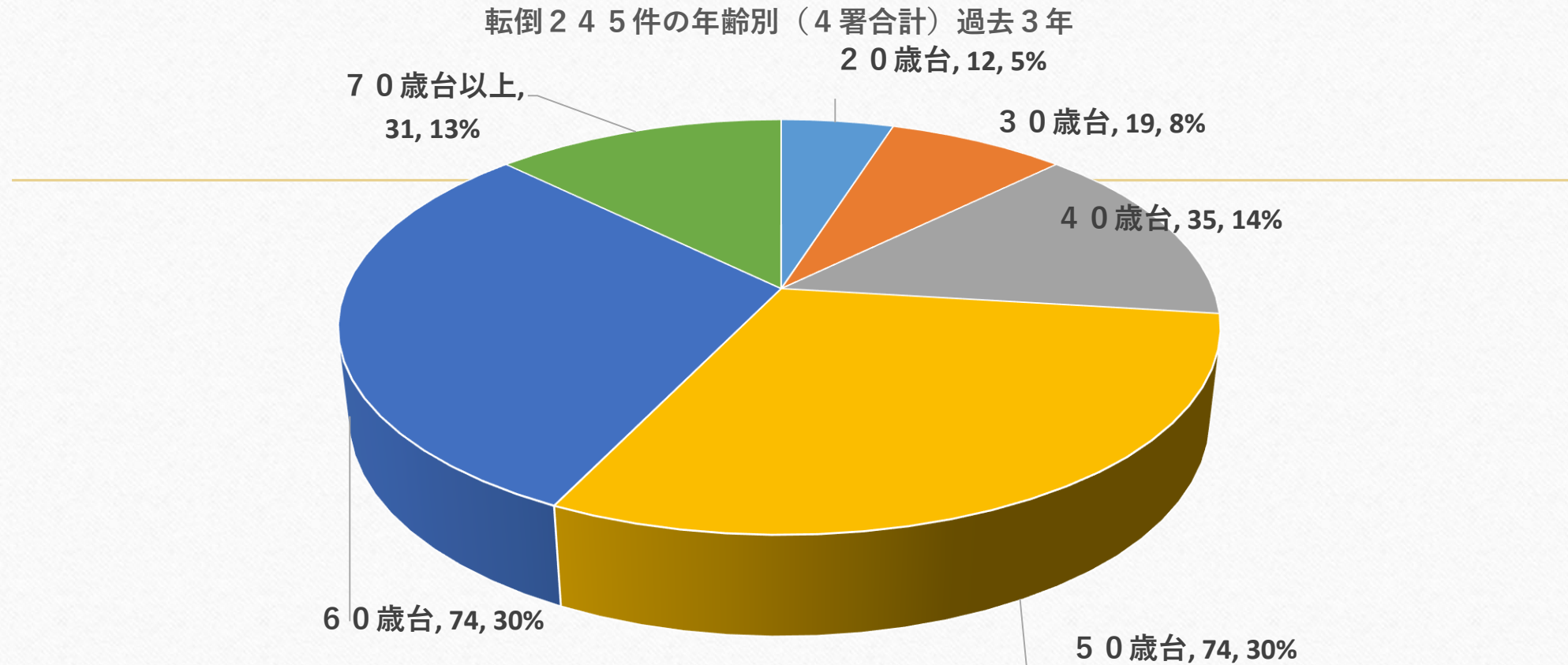


転倒79件の年齢別 (横浜西署) 過去3年



***特に50歳台、60歳台の転倒災害が目立ちます！**

9-3 社会福祉施設の災害の特徴 (4署合計 転倒の年齢階層別)



*** 50歳台以上で75%を占め、40歳台以上では87%を占めています！**

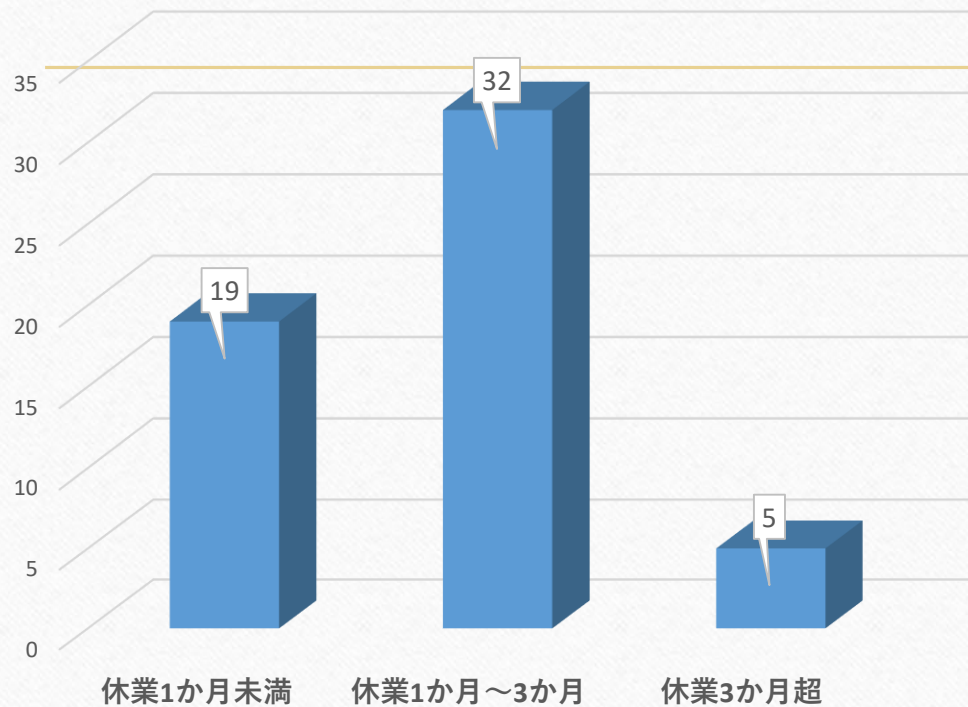
次に、転倒災害の休業期間をみてみましょう

- 休業期間は腰痛以上に長引く傾向にあります。

10-1 社会福祉施設の災害の特徴 (署別 転倒の休業期間)

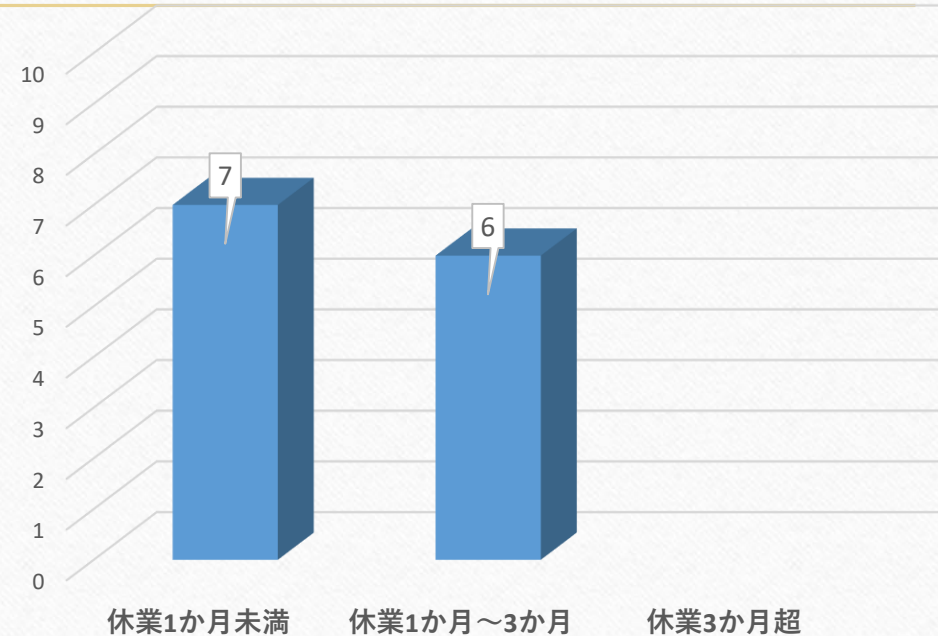
転倒56件の休業期間別 (横浜南署)

過去3年



転倒13件の休業期間別 (鶴見署)

過去3年

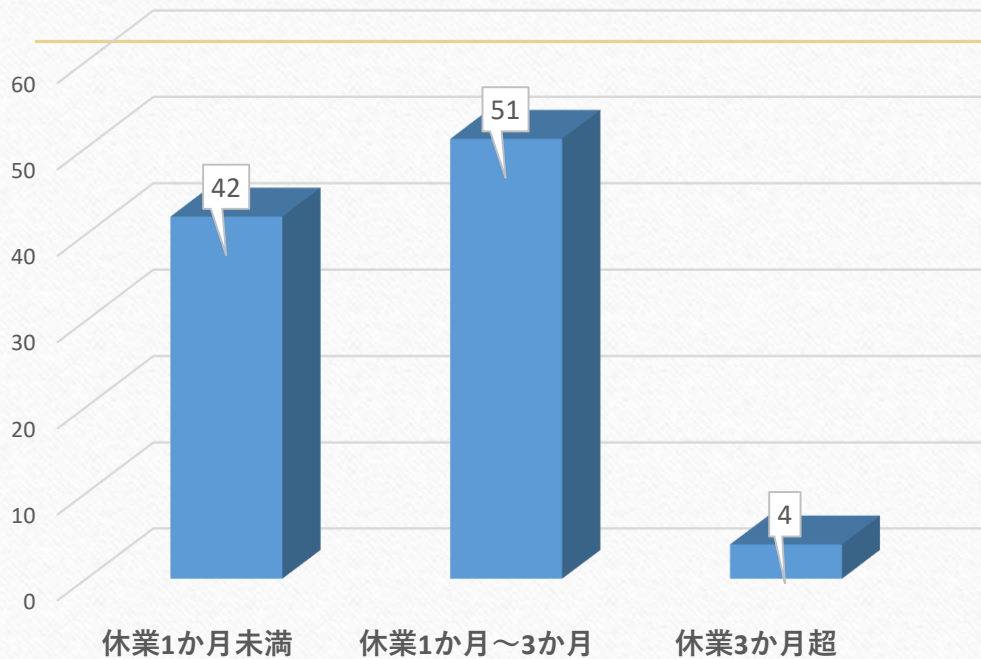


*** 転倒災害は骨折を伴うことが多く、休業期間が長引く傾向にあります。**

10-2 社会福祉施設の災害の特徴 (署別 転倒の休業期間)

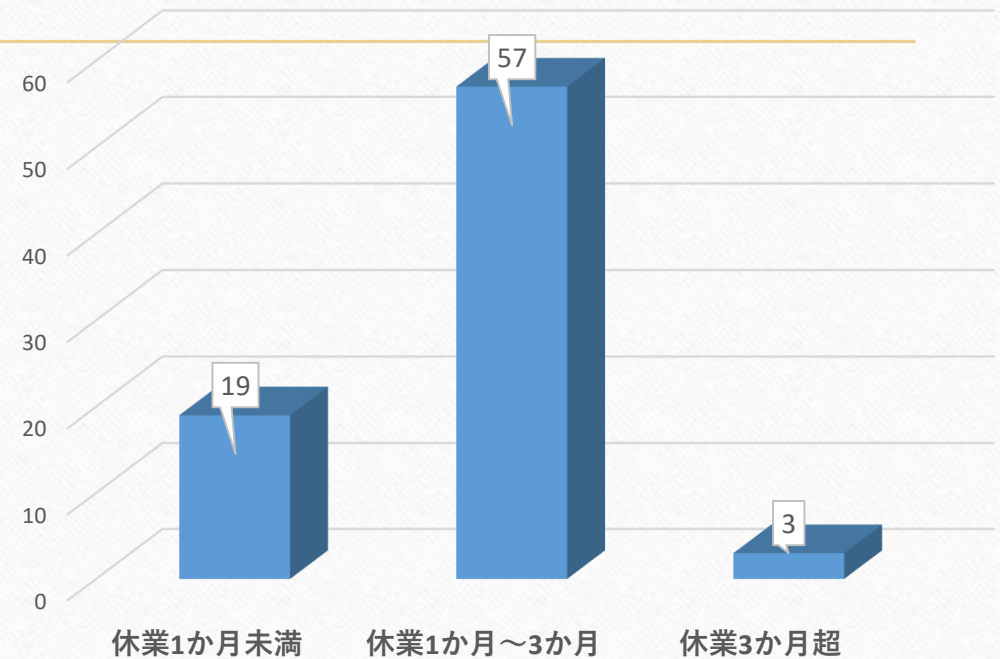
転倒 97 件の休業期間別 (横浜北署)

過去3年



転倒 79 件の休業期間別 (横浜西署)

過去3年

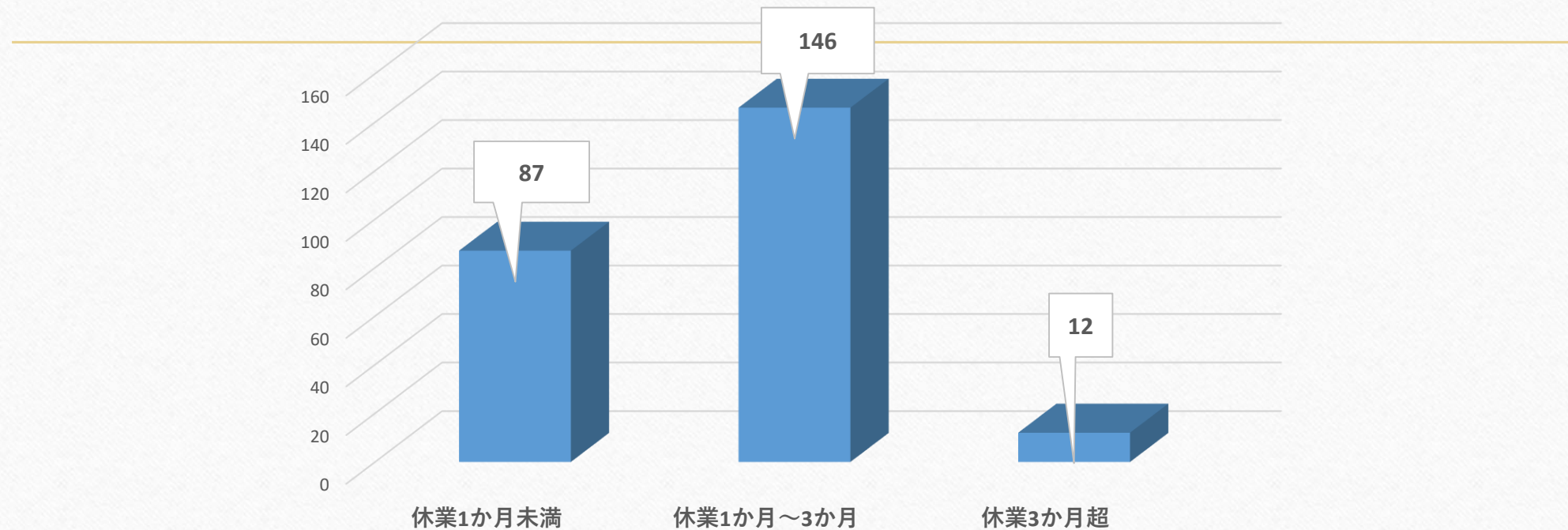


* 転倒災害は打撲で済まずに骨折に及ぶことが多いため、休業期間が2か月～3か月も珍しくありません！

10-3 社会福祉施設の災害の特徴 (4署合計 転倒の休業期間)

転倒 245 件の休業期間別 (4 署合計)

過去 3 年



***休業1か月以上で65%を占めています。また、転倒により頭部を負傷した場合、生命に関わる重篤な災害にもなります！**

11 行政の取組について

11-1 腰痛予防のために

- 腰痛対策で大切なことの一つは、予防の取組です。
- 厚生労働省では、職場での腰痛を予防するために、「腰痛予防対策指針」(平成25年6月改定版)を策定して、事業場としての取組や、腰痛予防体操等の労働者の取組など、予防対策の周知に努めています。

11-2 転倒災害防止のために

- 転倒災害防止対策では、床面の滑りの原因、つまずきの原因などを除去することの他に、転倒予防のための体操も大切です。
- 神奈川県労働局では、「STOP！ 転倒災害プロジェクト」を展開しています。「ころばNICEかながわ体操」の動画も、ぜひご覧ください（「ころばNICEかながわ体操 神奈川県労働局」で検索してください。）



11-3 働く人に安全で安心な 店舗・施設づくり推進運動

- 厚生労働省と中央労働災害防止協会では、増加する小売業、社会福祉施設、飲食店での労働災害の減少を図るため、「働く人に安全で安心な店舗・施設づくり推進運動」を展開しています。
- 作業に携わる方全員が、4S活動(整理・整頓・清掃・清潔)による危険要因の除去や、危険の「見える化」(危険箇所のわかりやすい周知)などに取り組んでいただくことで、安全意識の向上を図っていただくようお願いします。



11-4 エイジフレンドリーガイドライン

(高年齢労働者の安全と健康確保のためのガイドライン)

- 休業4日以上全労働災害のうち、50歳台以上が占める割合が増加し、令和元年には半数を超えました。このため、厚生労働者では、令和2年3月にガイドラインを策定し、高年齢労働者が安心かつ安全に働ける職場づくりを推進しています。
- 高年齢労働者の体力の衰えに気付いてもらうことも重要です。ガイドラインを踏まえた体力チェックと安全衛生教育を行いましょ。

労働災害発生状況の説明は以上です

- あらためまして、新型コロナウイルス感染拡大防止の対策を講じながらの日々の介護業務の運営に対して、あらためて敬意を表します。
- 一人でも多くの方が、そして、一つでも多くの事業場の責任者の方が、腰痛予防、転倒災害防止対策に取り組まれることを切に願います。

-
- ひきつづき、腰痛予防、転倒災害防止に日頃から取り組まれている特別講師の講演動画をご覧ください。